

アフリカ・ビジネス事情

電子マネーが変えたケニアの金融事情

この5年間にケニア人の暮らしを大きく変えたものに携帯電話を利用した電子マネー、エムペサ (Mpesa) があげられます。ケニアの携帯電話会社大手のサファリコム (英国ボーダーフォン系列) がモバイルのエム、スワヒリ語でお金を意味するペサから名づけたこのエムペサ、銀行に口座を持たなくてもサファリコムの利用者間の友人・家族・ビジネス相手に SMS (ショートメッセージ) を利用して簡単に送金できる画期的なシステムです。英国ボーダーフォンが英国政府の援助を受けてシステムを開発し 2007年3月にケニアに始めて導入されました。エムペサへの登録は無料。銀行口座に入金すると同様に最寄のエムペサ取扱店にて入金すると自分の電話番号に入金が記録されます。後は送金したい時に自分の携帯電話から送金相手の電話番号と金額を入力し、暗証番号を入れて送信するのみ。瞬時に送金先と金額を確認する SMS が届くと同時に送金受け取り相手にも入金を知らせる SMS が届きます。エムペサのサービス開始から8ヶ月間で利用者数90万人、取次店数は1200店に上りました。5年後の現在、利用者数145万人、取次店は全国3万7千店、月平均560億円の取引があります。他の携帯電話会社も同様のサービスを始めました。

ピアツーピアへの送金で始まったエムペサですが現在は多様なサービスがエムペサを通じて可能です。例えば電気、水道、携帯代などの支払い。給料の支払いや買い物、イベントやコンサートのチケットさえもエムペサで支払うことができます。最近では銀行の自分の口座から直接エムペサに入金できるようにもなりました。

ではなぜ、エムペサがケニアでこれほどまでに成功したのでしょうか？2007年の調査ではケニアで正規の金融機関に口座を持つ人は人口の20%でした。人口の7割が地方に住み自給自足に近い生活を送るこの国ではナイロビなど都市にいる出稼者が田舎の家族に早く安全に仕送りをする方法として、非効率な郵便局からの送金や田舎に帰る知合いや友人に託すなど方法に限られていましたが、送金が届くまで時間がかかったり安全面からも問題がありました。それが携帯電話のキーだけで安全かつ瞬時に送金することができるようになったのです。まさにケニア人のニーズに合致したサービスだったのです。

現在は英国、アメリカ、カナダなどの海外からの送金が可能になり海外の家族・親戚からの仕送りもエムペサで受け取ることができるようになりました。海外からの仕送りはケニアの外貨収入のトップ3に入ることからエムペサは個人の生活だけでなく国の経済にも大きな影響を与えています。

エムペサはまた多くのビジネスや雇用を生み出しました。最も顕著なのはエムペサの取次ビジネスです。取次店は入金金額を入金者の携帯電話に登録したり、出金の取次ぎをすることで手数料収入が入ります。忙しい取次店では朝夕に人が行列をなします。手数料の高い銀行口座を持ってない低所得者層にとってその日に稼いだ日銭を安全に保管できるのがエムペサ。これなら帰宅途中にスリや強奪にあってもその日の収入を失うことはありません。

保険会社が農業関係の財団とタイアップして天候の変化による農作物の被害に対する小規模保険をエムペサを通じて売り出しました。農民はエムペサで小額の保険料を支払い、天候や農業に関する情報を SMS から受け取るというベンチャービジネスも生まれてきています。

エムペサはケニアの携帯電話普及率の高さと正規の金融機関が都市の裕福層の利用に限られていたという状況から瞬く間にすべての所得層に広まりました。特に銀行の口座管理料など負担できない中・低所得者層にとって、銀行のようなサービスが携帯電話を持っているだけで受けられるのです（もちろん限界はありますが）金融機関でない携帯電話会社が金融機関と類似のサービスを提供することに関して懸念が無いわけではありません。しかし、エムペサが銀行と同様のサービスを提供しているわけではないことからケニア中央銀行もどのような規制をするべきか、いまだ模索中というところでしょうか。エムペサの利便性をそごような規制は利用者から大反感を買う可能性もあります。

エムペサを利用したサービスやビジネスは日進月歩で拡張しており、ケニアでは既存の金融機関がエムペサとリンクアップして顧客の拡大を図るという面白い構図が出来つつあります。サービス開始5周年を記念した新聞広告でサファリコムはエムペサが保健、農業、コミュニティ開発などケニアの重要な経済開発と共に発展してきたと宣伝していますが、それがまんざら誇大広告でないと感じるのは著者一人ではないでしょう。

2012年4月 杉本寛子